

京都府教育委員会教育長賞

## 許すじやない

京都府・福知山市立遷喬小学校

六年

亀飼

悠斗

犯罪を犯した人が、もう二度と同じようなことを起こさないようにするにはどうしたら良いのだろうか。

朝起きてニュースを見ると、悲しいニュースが流れてこない日はない。そんな悲しいニュースを見るたびに自分も悲しくなってしまう。では、悲しいニュースが世の中から少しでも無くなるようにするためには何をすれば良いのだろうか。また被害者やその家族の悲しみをどうやったら無くすることができるのだろうか。

ぼくは、社会での差やある特定の人への不満から犯罪や非行が生まれているのだと思う。そして、一度過ちを犯してしまったり、すっかり更生しなければ、またもう一度非行に走ってしまおうと思う。では、どうすればしっかりと更生できるのだろうか。

少し前にニュースで犯罪を犯した複数人が死刑になったという報道があった。確かに被害者やその家族はとても悲しみ、にくみ、死刑を望んでいたかもしれない。しかし、ぼくは、更生すればふつうの社会人にもどれたのではないかとも思った。それは加害者が死でつぐなうのではなく、人にめいわくをかけたということ、また自分が相手の立場だったらどう思うか、ということを加害者に自覚させ、自分の犯した罪を背負いながら過ごしていくことが一番の「つぐなう」なんだろう。また死刑になった人の家族はどう思うだろうか。犯罪を犯してしまったとは言え、いつも一緒にいた人が亡くなってしまったのは悲しいと思う人がほとんどなのではないだろうか。もし被害者が亡くなった場合、その人はかえってこない。だからこそ加害者にはしっかりと被害者や、その家族の思い、人にめいわくをかけたこと、また自分が相手の立場だったらどう思

うかなどを自覚させ、それらの思いを背負いながら生きて欲しいと思う。

また、被害者をケアすることもとても大切だと思う。それは一番悲しみ、心配しないといけないのは被害者やその家族だと思ったからだ。ぼくがそう思う理由の一つに、ぼくが受けたいやがらせの経験がある。その時先生に相談すると先生はしっかりと受け止め、対処してくれた。ぼくはとてもうれしかった。しかもその時、いやがらせをした人はだれかということも聞かれたが、そのことばかりを聞き続けるのではなく、「大丈夫だった？もう大丈夫だからね。」と被害者のぼくをケアしてくれた。また、クラス全体に言うのは最低限にとどめ、広めるのを防いしてくれた。その後、いやがらせをした人が発覚して、先生はしかってくれた。ぼくが許すと先生も許し、注意をして終わった。その後謝っていることが周りにも知られて、責めたりうわさ話をする人がいるかと思ったが、そんな人は一人もいなかった。この経験から、相手を許すことも一つの手として大切なんだと思った。そこからしっかりと反省し、更生していけば犯罪や非行のない世界ができるのではないかと思う。

確かに命をもってつぐなうというのは被害者側の気持ちとしては納得できるかもしれない。しかし、加害者の家族が悲しむことも防ぎたいという人もやっぱり少なからずいるのではないかと思う。だからやはり加害者は自分のやった過ちを認め、そのことを背負いながらもう一度一から生活していくことが大切なんだと思う。犯罪や非行を無くすには、もう二度としないという本人の気持ちももちろん大事だし、しっかりと許すことも大切なのではないだろうか。

京都府教育委員会教育長賞

## 理想の社会はどんなだろう

京都府・京都府立福知山高等学校附属中学校 三年

かなもり 金森 優佳

「過去にとらわれて人を束縛する社会とその過去を受け入れ合える社会。」あなたはどちらの社会で生きたいだろうか。

ある日、いつものようにリビングでテレビを見ていた時のことだ。そこでは、ある犯罪のニュースが報道されており、どうやら殺人事件のようだった。私は、しばらくその事件で被害に遭われた方の家族のインタビューを聞いていた。日本でも世界でも絶えない殺害事件。こういう事件を見ると、いつも思うことがある。名前や年齢、顔や殺人の動機まで報道されてしまった容疑者とその家族は、今どうしているのだろうか。ネット社会と言われどんな情報でもすぐに拡散されてしまうこの時代。ネットの波に乗って自分の家族の罪が全国に広まっていく様子を黙って見ているのだろうか。それとも、知らぬ間に晒される自分たちの個人情報を見ないよう、家族で身を寄せて、閉じこもっているのだろうか。いずれにせよ、罪を犯してしまった人やその家族の人権が侵害されることに変わりはない。世間にその出来事が報道された瞬間から、彼らの人権はないに等しい状態へと一変する。

日本国憲法第十一条によると「基本的人権の尊重」といい、全ての人は生まれながらにして基本的人権を保障されており、これは侵すことのできない永久の権利だそうだ。たとえ、罪や過ちを犯してしまった人も、そうでない人も、日本で生まれた全ての人にこの権利は与えられている。にも関わらず、今、ネットによる書き込みによって、容疑者やその家族が傷つけられている。私は、そうして苦しんでいる人たちのことを思うと胸が苦しくなった。私たちはどうも簡単に人の権利を侵害し、傷つけることができるのか。さらに驚

いたのは、世の中には人を傷つけることを躊躇わない人がたくさんいるということだ。そうして、一度アップされた情報は瞬く間に、まるで伝染病のように人から人へと広がっていく。それを見た容疑者やその家族はどうだろう。私は彼らもまた、被害者ではないかと思う。なぜなら彼らは、言葉という鋭い武器で精神面を激しく攻撃されているからである。学生の立場から考えれば、それは十分いじめである。

もちろん、罪を犯した人が簡単に許されるわけはなく、その人たちは自分がしたこと重みをしっかりと理解し、償いをすべきだと思う。しかし、償いを終えた後の彼らは、自由に生きる権利があるはずである。誰も誤った認識で彼らを束縛する事はできない。それなのに、今の社会には私たちが共通して持つ、彼らの過去にとらわれた偏見で、彼らが社会復帰しにくい雰囲気はまだ残っている。私は、今の社会で共有されている考え方と雰囲気が、未来に続いていくことは危険なことだと思う。

こうした現状を変えるために、私たちにできること。それは犯罪に対する今の固定観念を変えることだと思う。そのために意識すべきことは二つ。まず、多くの人が犯罪者やその家族を軽い気持ちで傷つけることはいけないことだと認識すること。それは、犯罪を犯すことと同じくらい、人としてやってはいけないことである。自分が同じことをされたらどう思うのか、私たちが行動を起こしてしまいう前に、一度立ち止まってよく考える必要がある。そして、少し時間が経った後、罪を犯した人が再び社会に復帰する時、それを知った私たちはその人に差別的な目を向けてはいけない。その人の過去にとらわれず、その人自身をきちんと見、受け入れることができる社会の雰囲気を作るべきだと思う。その人はきつと、犯してしまった過去を悔やみ、必死に抱えながら、新しい人生のステージに踏み出したのだ。それは、私たちには想像もつかない程、とても勇気の要る行動だと思う。だから私は、その人の前向きな気持ちを応援し



たい。こうした認識が人々の間にどんどん広がっていくと良いと思う。そうして、誰もが暮らしやすい社会は作られていくのである。

人は誰でも長い人生の中で、一度は失敗したり、過ちを犯したりするとと思う。しかし、今の社会は一度過ちを犯してしまうと、元の生活には戻れない。そして私たちは、それを知っているから人を傷つけることを厭わない。私は、そんな社会を変えていきたい。それは簡単なように見えて、決して容易なことではないだろう。けれど、今の社会について、よく考えてみてほしい。

「過去にとらわれて人を束縛する社会とその過去を受け入れ合える社会。」

私は、将来過去を隠し、自分や周りに嘘をつきながら生きるより、過去を元に戻しができるチャンスがある、そんな社会で生きていきたい。あなたの生きたい社会はどんなだろう。

